

和泉陽の ライフヒストリー

～トランスジェンダーとしてADHDな日々～

現在の和泉陽 自己紹介



診断:性同一性障害、ADHD

セクシュアリティ:オンナのヒトからオトコの人になったヒト

2016年に性別適合手術を行う

2018年に戸籍変更(女→男)し入籍、現在独身

お仕事:福祉系の相談員として働いている

生い立ち

- 父、母、9歳上の兄のもとに「待望の女の子」として産まれる
- 母親はアルコール依存で毎晩朝方まで娘を相手に愚痴る日々
- 父はパチンコに逃げる日々
- 兄の彼女は14歳。部屋に二人で引きこもる日々
- 夜は友達の家を転々とするも
「あの子は変わってるから」
- 家庭の異常には誰も気づかない
- 機能不全家庭のパイプ役に

⇒「いつかスーツを着たお姉さんが自分みたいな子がたくさんいるところに連れてってくれるんだ」



子ども時代の記憶をたどると…

幼稚園が嫌だ！

- スカートの制服をボイコットして私服登園
- 男のことばかり遊ぶ日々
- 母の「待望の女の子」の期待
- 長い髪、女の子らしい服、テレビアニメ…etc
- なんでなんでなんで？？？
- 七五三をボイコットする→周囲の落胆

女の子なんだから、女の子なのに

- 納得のいかないたくさんの「性別規範」
- 反抗する度に周囲の落胆や怒り
- 否定される自分の性表現

止まらない「なんで？」
大人は誰も説明してくれない！

女の子なんだからティッシュとハンカチくらい持ちなさい！

男の子は持たなくていいのかな…



赤いランドセルが届いた！

- 自分はこちら側の人間なんだ、と自覚する
- 過去の体験から、決められたものは変えられないと学習
- 世界は性別で二つに分けられている。従わなければ世界から迫害される！



学生時代 女子学生として埋没するも…

- 男女どちらのグループにも混ざれない自分
- 出来る限り女性的な表現を避け、中性的な位置や立ち居振る舞いを探す
- どんどんきれいになっていく友達。自分だけがいつまでもすっぴんのまま
- 「いつまでごまかし続けられるんだろう…」
- オトナの女性になった自分が想像できない。将来が描けない

働くということ

- 15歳を過ぎたらとにかくアルバイトをし続ける
- 制服、ヒール、化粧…「自分」はどこまで許せるのか？
- 女性性を避けた仕事にばかり就き、正規職員にはなれず
- 次第に学校や家とは疎遠に。

- 飲食店勤務で長時間拘束、殴られる日々
- 「正社員にしてあげるから」という対価型性被害
- 世界中にあふれる「女の子なんだから」
- 住所不定有職・暴力暴言の蔓延した職場、ミスの連発
どれだけやっても普通になれない
自分には家族も仕事も家も何もない…

何のために生きているの…？

このまま女の子になれな
かったら、
死ぬしかない……

勢いあまって死にかけました

- ウイスキーでODして救急搬送
- 人に迷惑しかかかっていない
自分は死ぬべきだと思った
- 目が覚めて最初にしたこと
→会社への欠勤連絡



死ぬのって、死ぬほど苦しいな…やっぱりもう一日生きてみようかな

もしも性別を変えたら？

- 彼女もでき、「自分はレズビアンなのか？」と納得させていた日々
- 友人の「性別なんて変えちゃえばいいんだよ」をきっかけに具体的にイメージし始める
- 見切り発車での性別移行。診断書を取得し、ホルモン治療を始める
- 高額なSRS(性別適合手術)

女の子からトランスジェンダーへ



トランスジェンダーとして働いても…

- 中性的な外見に戸惑う面接官や上司
- 「女性が男子トイレを使うのは倫理的にちょっと…」
- 「男性として働くのはいいけど、更衣室とトイレは女性用を使ってね」
- 「女の子の輪に入れないなら、俺が間に入ってあげようか？」
- 男女分かれたネームストラップ、自分に渡されたのは…赤
- お互いに「男性として働くとはどういうことなのか？」共有できずにすれ違う職場
- ⇒ 離転職の繰り返しからの困窮状態へ

入籍をするということ

- 妻の親族からの「そういう人がいてもいいと思うけど、私たちの世界にはいてほしくない」
- 「子供がいじめられたら困るので、学校には出入りしないでください」
- 「近所の人には「女友達です」というように」
- 「うちの店に来ないで！」→コンビニが出入り禁止に
- 差別はしないという名の差別

家賃の支払いができず、
家がなくなりました

困窮の負の連鎖

- NLPを勉強し、自分にもホワイトカラーの道があることに気付き、株式会社大手上場の営業として就職する
- 税金や年金、光熱費や家賃の滞納、ごみの分別、暮らし方…etc
様々なことを知らな過ぎて一人暮らしが回っていかない！
- 就職してから初任給まで約2か月、どうやって生きていくか

トリプルワーク戦法…

月～金は正社員として働き、夜はバイト、土日は即給の単発派遣、という3つの仕事をしながら初任給までやりくりする

↓↓ **これをひたすら繰り返す日々** ↑↑

身体が持たず、一番収入の大きい正社員を手放す→また就活

支援との出会い

- 2012年、性同一性障害の診断と同時に発達障害の診断も出る
「だから自分はできなかつたのか！」と納得したものの、仕事や生活ができるようになるわけでもなく、相変わらずトリプルワーク戦法を続けていく
- トリプルワーク戦法が破綻し、ホームレス状態になる
- ハローワークの専門援助に通って「自分の取扱説明書」を作っている時期で、障がい者就業・生活支援センターから基幹支援センターへつながる

手帳と年金、そして「自分の取説」

- 基幹支援センターの支援により手帳と年金を取得。そのお金で住居を手に入れる
- 性別適合手術をする
- ハローワークの専門援助部門に通い続け「自分の取扱説明書」を作りながら生活のことなど教わる
- 「自分の取扱説明書」をもとに就活をし、介護士として結構長く仕事が続く
- 同時期に基幹支援センターの勧めで相談員も始める



安定しても/安心だからこそその「無断欠勤」

- 飲食時代のトラウマがもとで欠勤連絡を入れる恐怖→無断欠勤
- それでも見放さない職場。一緒に打開策を考えてもらえる
- 訪問看護と社協の金銭管理サービスを使いながら生活の仕方や金銭管理、書類管理の能力を獲得していく

駄菓子菓子！

- 安定しだすと無意識に環境を壊すような衝動性を発揮する
(例: 転職、依存的な結婚、ODして入院、それらから逃げるように釧路へ…etc)

コロナの恩恵

- リモートワークにより無断欠勤が極端に減る
- → 発達障害者にとっての出勤へのハードルの高さ
- 諦めずにかかわり続けてくれた人達の努力の成果が表れ始め、欠勤連絡が入れられるようになってくる

三段階メール戦法 上司に3回メールする

①前日「荷物の準備、起床時間、出発時間、到着時間」

②当日「朝 起きました」

③「電車乗りました」

その他。随時途中でトラブルが起きたら連絡することで欠勤連絡へのハードルが下がっていく

そして今…



- 相談員としてそろそろ8年、同じ組織に従事
- 安心・安全になると不安になるが、環境を壊さずに済んでいる
- その不安は吃音、失声という形で身体症状として表出している
- It's me Ichikawa～生きづらさんの村～という居場所事業を始める
- 初対面の人には「性別はオナナのヒトからオトコの人になったヒトです」と公表して生きている
- しましまの腕は最近色が薄くなってきています
- 日々模索、葛藤しながらあまり普通じゃない日々を謳歌中！